

NO.80

令和7年12月26日

社会福祉法人 春風会 広報誌

発行 社会福祉法人 春風会 理事長 石川三義 〒410-0302 静岡県沼津市東椎路1742-1 ☎ 055(967)1166㈹ ☎ 055(967)3566 春風会HPアドレス <http://www.shunpuukai.com/>

法人福利厚生部会主催  
職員親子バスツアー 国立科学博物館にて

私は平成十二年四月に、それまで全く縁のなかた、未知の世界である介護業界に飛び込みました。そのきっかけは、当時あしたかホームに入所されていた多くのお年寄りとの関わりでした。

私がボランティアとして施設の廊下や居室の中で掃除機をかけていると、「初めてあの、帰りたいんですけど!」と私は毎日声をかけてくれるおばあさん（Sさん）がいました。Sさんは毎日同じように「はじめまして」と言うので、最初は特に違和感は感じませんでしたが、三日くらい経った頃には「なぜはじめてじゃないのに『はじめまして』というのだろう?」きっとこの人は私を笑わせようとしてくれてるんだ」と勘違いをして、「はじめまして…いや昨日も会ってるじゃないですか!（笑）」とツッコミを入れて笑っていました。そんな私を見てSさんはキヨトンとした顔をしていました。当時は認知症について全くの無知であり、本当にSさんが冗談を言つているのだと思つていました。それが認知症の症状の一つ、記録力障害であると知った時、「気に入りして知りたくない、夢中で本を読んだり、インターネットで調べたりしてたことが昨日のことのように思い出されます。

あしたかホームでは、早くから認知症高齢者を受け入れ、小規模デイサービスや生活指導ホームという認知症の人とそのご家族等が地域で安心して暮らせるよう取り組んできました。また、昭和五

九年には静岡県から痴呆性老人待遇技術研修の運営を委託され、県東部の介護施設等の職員への指導を行ってきました。平成十二年に介護保険制度が導入されながらは、前述の研修も痴呆介護実務者研修、認知症介護実践者研修と名称が変更となり、平成十六年度からは研修の運営も静岡県社協へ移行されましたが、私はこの研修の講師や企画運営を行う為に、平成十四年に認知症介護指導者養成研修に派遣され、修了後は指導者として認知症研修に関わりを持たせていただいています。

私が現場で認知症ケアに取り組んでいた頃、石川理事長から「認知症の人をケアするには、その人の詳細な生活歴が不可欠である。職歴や趣味、思考、生きがいだったこと等からその人らしさを把握し、それをケアに活かすべきだ」と指導を受けました。その人らしさをケアの中心に置くパーソンセンタードケアの概念に近い考え方です。この教えをもとに、これまで数えきれないお年寄りと関わりを持ち、かけがえのない経験と知識をいただいてきました。

現在65歳以上の5人に1人は何らかの認知症になると言われており、誰が認知症になつてもおかしくない時代です。「最近まで自分らしく住み慣れた地域で暮らしたい」この普遍的ともいえる地域ニーズに対応していく為にも、その人らしさを大切にした認知症ケアの質向上に、これからも取り組んでいきたいと思います。

## 「その人らしさ」を支援する

沼津市立高尾園 施設長 川口 浩史



日時：令和7年11月24日（祝）  
会場：プラサヴェルデ  
コンベンションホールA・B

# 法人創設50周年記念行事

社会福祉法人春風会は昭和51年8月に法人が設立され、今年度法人創立50周年の節目を迎えました。11月24日（祝）に沼津市にあるプラサヴェルデを会場に記念行事を挙行しました。

当団は、多くのご来賓やお取引先、永年にわたり法人の各施設を支えて下さった地域関係者やボランティアの皆様等にご来場をいただき、和やかな雰囲気の中、記念行事が進められました。

記念講演会の開演に先立ち、法人の障がい者施設利用者さんの「未来に向けた音楽団」による合唱が披露され、会場は一気に和やかな雰囲気に包まれました。講演会では、「注文をまちがえる料理店」発起人の小国士朗氏を講師としてお迎えし、「ま、いつかの気持ちが広がる社会づくりについて、わかりやすく、時に笑いを交えながらお話し頂きました。会場からは何度も頷きや笑顔が生まれ、参加された皆様からも「気持ちが軽くなつた」「地域福祉のヒントになつた」との声を頂戴しました。



「未来に向けた音楽団」の合唱



記念講演会の開演に先立ち、法人の障がい者施設利用者さんの「未来に向けた音楽団」による合唱が披露され、会場は一気に和やかな雰囲気に包まれました。講演会では、「注文をまちがえる料理店」発起人の小国士朗氏を講師としてお迎えし、「ま、いつかの気持ちが広がる社会づくりについて、わかりやすく、時に笑いを交えながらお話し頂きました。会場からは何度も頷きや笑顔が生まれ、参加された皆様からも「気持ちが軽くなつた」「地域福祉のヒントになつた」との声を頂戴しました。

た。

社会福祉法人春風会は昭和51年8月に法人が設立され、今年度法人創立50周年の節目を迎えました。11月24日（祝）に沼津市にあるプラサヴェルデを会場に記念行事を挙行しました。

当団は、多くのご来賓やお取引先、永年にわたり法人の各施設を支えて下さった地域関係者やボランティアの皆様等にご来場をいただき、和やかな雰囲気の中、記念行事が進められました。

## 記念講演会 COMMEMORATIVE LECTURE

時間：13:30～15:00

会場：コンベンションホールB（3階）

### 《式次第》

開会挨拶 社会福祉法人春風会理事長 石川 三義  
演 奏：春風会 未来に向けた音楽団（法人障がい者部会）  
講 師：「注文をまちがえる料理店」発起人 小国士朗 氏  
演 演 題：「注文をまちがえる料理店」のこれまでとこれから  
閉 会



小国士朗氏による講演会

# 記念式典 ANNIVERSARY CEREMONY

## 《式次第》

開式の辞 社会福祉法人春風会理事 鈴木 好晴  
式 辞 社会福祉法人春風会理事長 石川 三義  
感謝状贈呈 ボランティア 5 団体・3 個人

- ① ひまわり喫茶グループ
- ② 理髪ボランティア
- ③ 生きがい友の会
- ④ 伊豆市日赤奉仕団
- ⑤ ぬくもり会
- ⑥ 西光寺仏教婦人会
- ⑦ みはるの丘浮島絵画寄贈
- ⑧ 大中寺法要ボランティア

表彰状贈呈 職員特別表彰 3 名

- ① 法人本部本部長 木内 和実
- ② 伊豆中央ケアセンター統括施設長 堀内 和憲
- ③ ぬくもりの里統括施設長 飯田 忠



時間：15：30～16：30  
会場：コンベンションホール A (1 階)

## 祝　辞

静岡県副知事 塚本 秀綱 様  
沼津市長 賴重 秀一 様  
衆議院議員 渡辺 周 様  
衆議院議員 勝俣 孝明 様  
静岡県議会議員 杉山 盛雄 様  
静岡県社会福祉協議会会长 山本たつ子 様

## 来賓紹介

## 祝電披露

閉式の辞 社会福祉法人春風会理事 石川 迅



時間：17：00～18：30  
会場：コンベンションホール A (1 階)

# 記念祝賀会 ANNIVERSARY CELEBRATION

開会挨拶 社会福祉法人春風会理事 大竹 敏雄  
来賓祝辞 静岡県老人福祉施設協議会会长 種岡 養一 様  
乾　杯 沼津市社会福祉協議会会长 研谷 明正 様  
祝　宴  
ビデオメッセージ 「こども園お祝いメッセージ」  
「もくせい苑 石井鉄平氏デザイン制作ビデオ」  
アトラクション 「アニバーサリーオペラ」  
閉会挨拶 社会福祉法人春風会理事 堀内 和憲  
閉　会

# 50周年記念行事 写真集

## PHOTO COLLECTION OF THE 50TH ANNIVERSARY EVENT



「プラム音楽団」の合唱



石川理事長による開演挨拶



ボランティアの皆さんへの感謝状贈呈



法人職員によるアニバーサリーオペラ独唱



記念品



職員への表彰状贈呈（特別表彰）



ビュッフェスタイルのパーティー



多くの方々にご臨席を賜りました



ご来賓の皆さんのお見送り



# 中学生夏季体験学習

## みはるの丘・浮島

毎年実施している小中学生体験学習を、令和7年7月下旬～8月上旬にかけて実施しました。今年度も小学生の体験希望はなく中学生のみの受け入れとなりましたが、昨年同様、真剣な姿勢で体験してくださいました。

中には今回が2回目という生徒もあり、とてもありがとうございます。

体験学習中、生徒に毎年質問していることがあります。「職場体験で介護施設を選んだ理由はなんですか?」「将来の夢はなんですか?」の2問です。前文について圧倒的に多い意見が、「祖父母と暮らしているから」です。これは10年程前から必ず聞かれる意見です。ただ、年々核家族化が進み高齢者に携わる機会が減ってしまっていることで関心という点が乏しくなり、結果として受け入れ人数も多い時で30～40人程の受け入れをしていましたが、今では数名になってしまいました。

後文について、圧倒的に多い意見が「まだ全然決めていません」です。感覚にはなりますが、昔は「看護師」「公務員関係」「スポーツ選手」中には「介護士」という生徒さんも若干名ですがいました。やはりこれも今の時代背景が大きく影響しているのではないかと思われます。



介護施設の人材不足は引き続き厳しい状況にあります。

今はどこの施設もDX化に努め、介護ICTを活用することで人手不足からの業務量増加の軽減に努めています。

体験学習での生徒の意見からみても、まだまだ高齢者や介護施設の認識は乏しいと思います。施設としては受け入れを待つだけではなく、介護施設を少しでも多くの方に知っていただけるような取り組みをしていきたいと思います。

毎年11月11日は介護の日になります。今年度は沼津市特養連絡協議会の企画で、ららぽーと沼津にて介護施設を知っていただく企画を実施しました。このようなイベントを通して介護施設の知名度を高めることで人材不足軽減に努めて行きたいと思います。

## サマーショートボランティアを受け入れて

### 沼津虹の家

沼津虹の家では、毎年夏休みに中学生と高校生を対象にした体験学習を実施しています。今年で44回目となります。過去には、多い年で8名の参加がありました。利用者との交流を通しての活動は、コロナ禍後の令和5年度から再開しており、今年度で3回目となります。

今年度は、中学生2名が参加してくれました。それぞれ1週間ずつ活動していただきました。初めてとは思えない動きで職員は、驚いていましたし、とても助かったと話していました。

また、利用者の皆様も昨年同様に、生徒さんを温かく受け入れてくれて、学生さんたちも充実した活動ができたようでした。実習終了後の晴れ晴れとした表情が印象的でした。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。





## みんなで作り上げた運動会

なかいす認定こども園

運動会の練習が始まった9月初旬は、連日のように「熱中症警戒アラート」が発令されました。暑さ対策をしながらも、なにかず認定こども園が毎年力を入れているのは、「子どもたちと一緒に作り上げる過程を大事にする」という気持ちです。

例えば年長児は、4月に体験した「鮎の放流体験」から始まつた川や海への関心へと発展させました。それが新鮮な魚を使つて作るお寿司屋さん開店へとどんどん広がったのです。ソーラン節の踊りにこれらの活動場面を子どもたちと話し合いながら



また、年中児は初めて「リレー」に取り組みました。始めは自分が走る順番や、自分と一緒に走る子との勝ち負けのみに関心が集まっていた子が、練習するたびに勝敗が変わったこともあって、「チームの勝利」について考えるようになっていきました。「どうしたらチームが勝てるかな」と考えたり、話し合ったりする時間を持つことで、協力してバトンを繋いでいくことで、チームとしての勝敗をみんなで喜んだり悲しんだりする貴重な体験へと結びつけたのでした。

ふらつと月ヶ瀬3施設では合同誕生会を、こども園のホールで行っています。プラムの利用者と、こども園の職員が交代でお楽しみの出し物をして、笑顔あふれる時間を過ごす取り組みです。

## 園児とデイ利用者をつなぐ誕生会 ～マジックショー～

あまぎ認定こども園



ふらつと月ヶ瀬3施設では合同誕生会を、こども園のホールで行っています。最後の大技はバランスボーラードに乗り、回るサッカーボールを口に咥えた棒でキャッチし、ジャグリンをするというものでした。失敗しても何度も挑戦する姿を見て、いつの間にか会場の気持ちは「つになつて『吉田さんのがんばれ!』とみんなで応援していました。技が決まるとき拍手と称賛の嵐でした。デイの利用者さんは「こんなに楽しいのは初めてだよ」「生きていてよかったです」と嬉しい言葉が聞かれ、終わつた後も和やかなお喋りが続きました。

今回の誕生会も、とても思い出深いものになつたようでした。

吉田さんが子どもの肩を触るたびにコインが次々と出てきます。あの子もこの子も触れた場所からコインが出てくるため「え! なんで?」と自分の体を確認する子もいました。穴の空いた筒の中から、とめどなく傘が出てくる手品には

## 高尾園の取り組む地域支援 再開!!居場所プロジェクト

救護施設の行動指針の中に、「生活困窮者の居場所づくり」が挙げられています。

高尾園も生活困窮者、引きこもりの方の居場所支援ができないかと、地域包括支援センター・民生、児童委員と連携を図りながら取り組みを始めた頃にコロナ渦となり、活動中断となりました。今年度より再度関係機関との連携を図り施設の特性を理解してもらうことから始めました。その結果、同居ご家族の他界により、引きこもり状態にある男性の居場所としての活用依頼に繋がりました。

まことに、利用者とトランプをしたり、軽作業の手伝いしたりと、マイペースに過ごされています。

当初、継続利用して頂けるか不安でしたが、「一人でいることが寂しい。暇だよ。」との声があり、週に一回の利用が3回に増え笑顔を見る機会も増えました。この活動を通して地域と共に、地域で必要とされる施設を目指していきたいと思います。



もくせい苑

本年度も、猛暑による水不足の影響を受け、農産物の生育不良もあり、今後も保水対策が必要不可欠となっており、中でも主要作物の「トウモロコシ」も約3000本の収穫を見込みましたが、本年は虫食いや鳥によ

## 実習農地による農福連携事業の推進



例年、もくせい苑の実習農地では、四季に応じた農産物を栽培すると共に販売活動も行つてきました。令和3年には、農地を拡大し栽培作物の拡充を図っています。また、伊豆の国市の補助金制度により電気柵の設置により鳥獣被害対策等も施し、安価で良質な作物の提供を目指してきました。

今後、農産物直売所での販売を縮小し、消費者ニーズに応えトウモロコシを中心に、秋から冬にかけ安価で良質な根菜や葉物野菜を栽培すると共に農産物加工品の検討も進めていきます。

る食害も多く見られ、悪い所を取り除き規格外（B級品）商品としての販売をしました。その他の農産物として、昨年に引き続き大根・根深・九条ねぎ・さつまいも・里芋の栽培も行つてきました。また、試験的に、栗かぼちゃ・ミニトマト・きゅうり・スイカ等も栽培し一定の収穫を上げる事ができたため、今後は栽培を計画的に見込んで進めて行きたいと思います。



# 地域共生大賞 「最優秀賞」受賞

# 就労継続支援B型事業所プラットフォーム



## ライ麦刈り取り後の天日干し作業



## シソジュースに麦ストロー

さらに、令和3年には、地域交流を求めていたプラムと互いの活動を連携・協力し合うように、天城茅野地区「はちくば会」と、地域課題の解決や活性化をともに目指し、「はちくば山麓つながるプロジェクト」を組織化しました。3年近くの実績を積み、こ

私たちアーテムは、令和2年7月より県が推進する農福連携事業として、遊休農地を活用してライ麦を栽培、加工し、商品化。安全で良質な麦ストローは、協力企業等でご購入いただきました。

私たちの「はちくば山麓つながるプロジェクト」が令和6年度地域共生大賞、「最優秀賞」を受賞しました。

この「地域共生大賞」とは、県社会福祉協議会が、「地域共生社会」の実現に向けた多様な主体分野が連携、協働して展開される活動を毎年表彰しているものです。

の賞へ応募できるところまできました。

この私たちのプロジェクトは、ライ麦が縁となり地域の活性化を図り、地域住民から福祉事業所、企業や大学をつないで共生の取り組みとして数々の実績を積んできましたことと、関係人口を増やし、将来を見据えた共生の取り組みであることが評価されました。

手探りで始めたこの取り組みは、障害特性を生かした利用者の頑張りと、地域活性化を目指すプロジェクトのメンバーの強い思いが同じ方向を目指して、努力を積み重ねてきた結果だと感じています。

今年は、このプロジェクトが県の一社一村しづおか運動に選ばれ農村促進支援事業として、協定・認定式を予定しています。今後も私たちのつながりはより強いものになっていくことでしょう。



## 鎌を上手に使っての刈り取り作業



## はちくば会有志と刈り取り作業の打ち合わせ

# 社会福祉法人春風会 決算報告書

## 事業活動計算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日  
(単位：千円)

勘定科目	決算額
サービス活動収益計①	4,603,832
サービス活動費用計②	4,401,980
サービス活動増減差額③=① - ②	201,852
サービス活動外収益計④	19,064
サービス活動外費用計⑤	6,301
サービス活動外増減差額⑥=④ - ⑤	12,763
経常増減差額⑦=③ + ⑥	214,615
特別収益計⑧	19,450
特別費用計⑨	14,802
特別増減差額⑩=⑧ - ⑨	4,648
当期活動増減差額⑪=⑦ + ⑩	219,263
前期繰越活動増減差額⑫	3,759,600
当期末繰越活動増減差額⑬=⑪ + ⑫	3,978,863
その他の積立金取崩額⑭	467
その他の積立金積立額⑮	160,058
次期繰越活動増減差額⑯=⑬ + ⑭ - ⑮	3,819,272

## 資金収支計算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日  
(単位：千円)

勘定科目	決算額
事業活動収入計①	4,625,293
介護保険事業収入	3,610,418
保育事業収入	311,606
障害福祉サービス等事業収入	333,554
生活保護事業収入	261,863
医療事業収入	8,164
事業活動支出計②	4,255,957
人件費支出	3,260,427
事業費支出	706,096
事務費支出	259,216
事業活動資金収支差額③=① - ②	369,336
施設整備等収入計④	14,671
施設整備等支出計⑤	91,753
施設整備等資金収支差額⑥=④ - ⑤	△ 77,082
その他の活動収入計⑦	7,855
その他の活動支出計⑧	170,205
その他の活動資金収支差額⑨=⑦ - ⑧	△ 162,349
当期資金収支差額合計⑩=③ + ⑥ + ⑨	129,904
前期末支払資金残高⑪	1,801,871
当期末支払資金残高⑫=⑩ + ⑪	1,931,775

## 貸借対照表

令和7年3月31日現在  
(単位：千円)

勘定科目	決算額	勘定科目	決算額
流動資産	2,100,834	流動負債	370,231
固定資産	7,941,573	固定負債	130,460
基本財産	4,133,562	負債の部合計	500,692
その他の固定資産	3,808,010	基本金	194,131
		国庫補助金等特別積立金	2,136,704
		その他の積立金	3,391,607
		次期繰越活動増減差額	3,819,272
		(うち当期活動増減差額)	219,263
		純資産の部合計	9,541,715
資産の部合計	10,042,408	負債及び純資産の部合計	10,042,408

社会福祉法人春風会の現況報告書・計算書類等は、春風会ホームページからもダウンロード出来ます。



### 総合防災訓練～地域との合同防災訓練～



令和7年9月7日(日)、あしたかホームでは、地元の芝原地区住民と合同で総合防災訓練を実施しました。地区の住民10名と近隣の事業所職員1名が参加しました。避難訓練では、実際の避難経路を確認し、住民の方に車椅子(模擬で職員が乗車)を操作してもらい、段差の乗り降りの体験をしていただきました。参加された住民女性からは、「かなり重たいんですね。乗っている方が安心してもらえるように声掛けが大切だと学びました」との感想をいただきました。その後、デイサービス棟に移り、災害時のトイレの使用方法について職員より説明をしました。凝固剤を使用しての排泄物の処理を模擬で体験していただきました。参加者からは、「災害に備えて食料の備蓄はしていたけど、トイレについては盲点でした。とても参考になった」とのことでした。

深沢施設長からも「能登地震の時もトイレの問題がありました。お年寄りはトイレに行かなくてもいいように水分補給せず、結果的に関連死に至ることもありました。福祉避難所としてこのようなことが起きないよう今後も準備していきます」との話がありました。

訓練終了後に住民の方から「施設で困るのは夜間に災害が起きた時だと思う。私も昔福祉施設に勤めていた。住人の中には看護師もいるし、消防団長だった人もいるので、出来ることはあると思います」とのご意見をいただきました。

いざという時に住民の方と協力できるようまずは顔見知りになる関係が大切だと考えます。今後も引き続き地域との関係構築に努めています。



### Honoring Service and Commitment

長い間ご尽力を賜わり、  
ありがとうございました。  
ありがとうございました。

勝亦  
芳紀  
様  
(評議員)  
平成24年4月～令和7年6月

大嶽  
博勇  
様  
(評議員)  
平成18年4月～令和7年6月

清水  
忠  
様  
(監理員)  
令和3年6月～令和7年6月

内田  
文喬  
様  
(理事)  
平成20年5月～令和7年6月

望月  
良和  
様  
(評議員)  
平成7年5月～平成9年5月

理  
事  
・監  
事  
・評  
議  
員  
の  
方  
々  
です。  
令  
和  
7  
年  
6  
月  
に  
退  
任  
し  
た

- 春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム 〒410-0302 沼津市東椎路1742-1 TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター 〒410-2402 伊豆市大野304 TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297
- 特別養護老人ホームぬくもりの里 〒410-2315 伊豆の国市田原1258-29 TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511
- 特別養護老人ホームみはるの丘浮島 〒410-0318 沼津市平沼929-1 TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385
- 障害サービス生活介護 沼津虹の家 〒410-0302 沼津市東椎路1742-1 TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566
- 障害サービス生活介護 ああばの家 〒410-2315 伊豆の国市田原1258-429 TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702
- 障害サービス就労継続支援B型 もぐせい苑 〒410-2315 伊豆の国市田原1258-47 TEL・FAX (0558) 76-6755
- 原高齢者福祉センター 〒410-0312 沼津市原1200-3 TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511
- ふれあいデイサービス(デイサービス一般型) 〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380

- 天城放課後児童クラブ 〒410-3213 伊豆市青羽根47 TEL (0558) 87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ 〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ TEL (0558) 83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園 〒410-0001 沼津市足高156-1 TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723
- ケアハウスはるかぜ 〒410-0318 沼津市平沼929-1 TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385
- 小規模多機能型施設 北狩野ケアセンター 〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地 TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか 〒410-0302 沼津市東椎路1639-1 TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレーグあおひと 〒410-2318 伊豆の国市白山408-9 TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299
- 障害サービスグループホームなぎの家 〒410-2315 伊豆の国市田原1258-437 TEL・FAX (0558) 77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆 〒410-2315 伊豆の国市田原1259-293 TEL・FAX (0558) 77-1221

- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬 〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園 TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880
- あまぎデイサービス(デイサービス一般型) TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス) TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201
- プラムカフェ TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター 〒410-0874 沼津市松長12-3 TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター 〒410-2414 伊豆市本立野531-1 TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302
- なかいづ認定こども園 〒410-2505 伊豆市八幡282-1 TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811
- はら居宅介護支援事業所 〒410-0311 沼津市原町中2-7-11 TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334